

交流と参加が盛んなまちづくりを目指して

市民自らが市民主体のまちづくりを考え、まちづくり活動の提案をし、参加を呼び掛けるため、平成十二年七月に設置された東区まちづくり市民会議「地域コミュニティ活動の活性化」をメインテーマとして、まちづくりに積極的に取り組む市民十二人が、自主的に活動を行いました。

今年の五月に約二年間にわたる活動を終了しましたが、メンバーと地域の方々が一緒になった新たな市民活動が生まれています。

今月は、その活動成果とともに、市民会議から生まれ今後も続けられる新たな活動について紹介します。



5月20日に行われた「解散・出発式」。右から樽見弘紀議長、東区のマスコトキヤラクター・タッピー、清水洋勝東区長

市 市民会議でのメインテーマは「地域コミュニティ活動の活性化」

交流と参加が盛んなまちづくり。これに基づき、各委員が日ごろから関心を持っている事柄を出し合いました。

その中から、「公園の可能性」、「まちの魅力」、「暮らしと環境」の三つのテーマを選び、それぞれグループに分かれて話し合いや調査を重ねました。

公園の可能性グループ

市民のコミュニティ活動の場として生活に身近な公園を活用したい、そんな発想から、このグループの活動が始まりました。

まず、公園の現状を把握するための現地調査と、市民が何を公園に求めているかを知るためのアンケート調査を実施。その結果、公園を再生するためには、利用する側と造る側の橋渡しが必要であるとの結論が出されました。

そこで、町内会やほかの団体との協働で、公園でのワークショップを開いたり、市民花壇を作ったりしました。このような活動の中から、札苗地区では、地域の方々の声を受け、公園の可能性グループと地域の団体が中心となり、「東苗穂北公園を考える会」が発足。苗穂地区でも「苗穂グリーン公園を守る会」が発足しました。

さらに、ほかの地区でも公園を活用しよう、住民による自主的な活



「ひがしく こうえん ネットわーく」が中心となり、5月24日に札苗地区の農本中チュール公園で花壇に花の苗を植えました

動団体ができつつあります。そこから、お互いに情報を交換し合うネットワークである「ひがしく こうえん ネットわーく」が生まれました。このように、地域の団体が生まれ、さらに地域を結ぶネットワークが広がり、公園を中心としたまちづくりが活発に行われています。メンバーは、公園の魅力を高め、子どもから高齢者まで誰もが触れ合えるコミュニティの実現を目指し、引き続き地域の方々と一緒に活動を続ける予定です。